

各関係機関団体の長 } 殿
各病虫害防除員 }

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

技術情報第9号

イチゴのハダニ類の発生について

本年度、イチゴの親株におけるハダニ類の多発については、平成28年5月2日付け28農林試第487号技術情報第2号において、注意喚起したところです。

その後、育苗期においても、8月5半旬は平年並ですが、全体的には平年よりやや多く、前年より多い傾向で推移しています。また、今後1カ月の気象予報でも、気温は平年より高いとされており、今後の発生量の増加が懸念されます。

昨年度のような本ぼでの多発を招かないよう、苗の段階での防除を徹底し、本ぼへの持ち込みを減らすよう努めましょう。

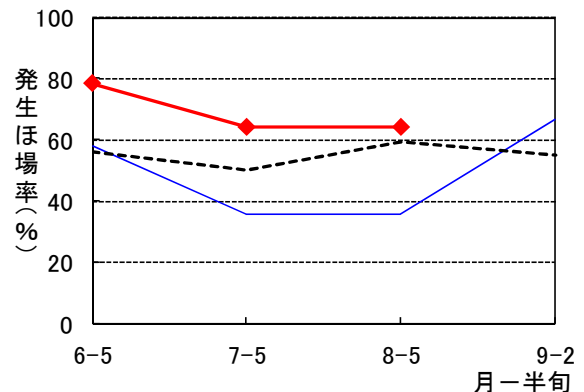
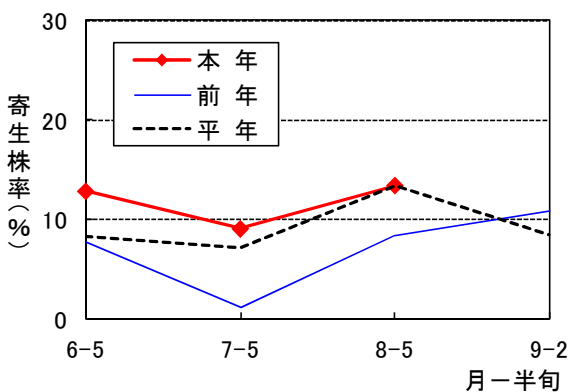
1 対象作物名：イチゴ

2 病虫害名：ハダニ類

3 発生状況

8月5半旬調査の結果、寄生株率は13.4%、発生ほ場率は64.3%であり、平年並で前年より高かった。なお、寄生株率60%を超える調査地点も見られた。

- ・ 8月5半旬の寄生株率 **13.4%** (平年 13.5%、前年 8.4%)
- ・ 8月5半旬の発生ほ場率 **64.3%** (平年 59.5%、前年 35.7%)



ハダニ類の発生推移

調査地点ごとのハダニ類の発生
状況（8月5半旬）

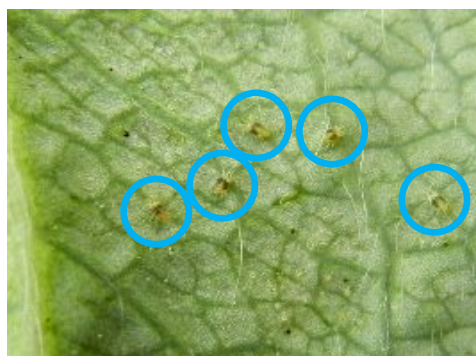
調査地点	寄生株率 (%)
A	34
B	0
C	36
D	14
E	4
F	66
G	0
H	0
I	0
J	2
K	28
L	2
平均	13.4

4 防除上注意すべき事項

- ア ほ場内や周辺の雑草は増殖の場となるので、除草を徹底する。
- イ 摘葉した葉はほ場内に放置せず、ビニル袋等に入れて密封し、処分する。
- ウ 本ほへ持ち込まないよう、苗の段階での防除を徹底する。
- エ 多発後は防除が困難になるので、発生状況に注意し、発生初期の防除を徹底する。
- オ 夜冷短日処理や低温暗黒処理を行う場合は、入庫前に十分防除を行う。
- カ 抵抗性がつきやすいので、気門封鎖剤も利用し、同一系統薬剤の連用は避ける。また、葉裏に薬液が十分付着するよう、摘葉かぎ後に防除を行う。
- キ 薬剤感受性が低下しているため、天敵を利用した防除を実施する必要があるが、その場合は、天敵類への影響が長い有機リン系、カーバメート系、合成ピレスロイド系、ピラゾール系の薬剤は使用しない。



ナミハダニの雌成虫および卵



ナミハダニが多数寄生した葉裏